

地の塩・世の光

マタイによる福音 5:13-16

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

説教

わたしたちは「目的と手段」という考え方に染まっています。

今はもう二月になってしまいましたが、ことしの目標はこれとコレ、年が改まるとこんな私さえ考えます。その目標を達成するためにはどうする、こうするとやり方、手段の段取りなどを考え出します。たとえば、今年の目標を海外旅行とすると、そのために必要なお金はいくらいくらかかる、いまの貯金では足りないのであれこれ節約して貯めよう、それでもまだちょっと足りないのでバイトをしよう、という具合です。

あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。マタイ 5:16

このイエスのことばを受けて、自分の生きる目標とします。

マタイ5章をよく読んでみると、イエスはこの目標を達成する「手段」として「地の塩、世の光」といっている。それなら自分も「塩・光」となり目的達成を目指そうではないか。

でもこのような考え方は間違っています。

聖書はマニュアルではありません。聖書に書いてある通りにしましょう、そうすれば「救い」はあなたに訪れますよ、というような生活のコツ特集ではないのです。

聖書は書物ですから文字で記されています。その中でも福音書はイエスのことばや行いが文字で記録されているわたしたちにとって大切な書物ですが、文字にとらわれるのは間違いです。

神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。第二コリント 3:6

イエスのことばは最初から文字で書かれたのではなく「霊のことば」として発せられました。わたしたちはいま直接イエスの声を聴くことはできませんが、霊のことばとして聞くことができます。聖書をたんなるマニュアルとして読むのではなく、イエスのことばとして、自分の「霊のこころ」に響かせることが大切です。

あなたがたは地の塩である。

あなたがたは世の光である。

イエスのことばを「手段と目的」として理解、解釈するのではなく、どうぞ自分のこころのなかに映しだすように受け止めてください。

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。マタイ 5:1-2

今からしばらくの間、目をとじて「地の塩、世の光」と山の上からイエスが語った霊のことばを思い巡らし、こころのなかに映し出してみましよう。
